

電源の確保と配線

- DXアバンティ
- DX禪
- DXファインウッド
- ファミリー
- ファミロング
- ファミスリム
- コンパクト
- ジュニア
- モアロング
- モアスタンダード

エレベーター専用ブレーカーの選定

- 主幹ブレーカーはインバーター適合品の漏電ブレーカーとしてください。
 (三菱電機NVシリーズ、日立Eシリーズ) ※2019年6月現在
- エレベーター専用のブレーカーを用意してください。定格は下表としてください。
 (三菱電機NFシリーズ、日立Fシリーズ) ※2019年6月現在

ブレーカー容量

駆動用	照明用
30A(200V)	10A(100V)

電源設備容量

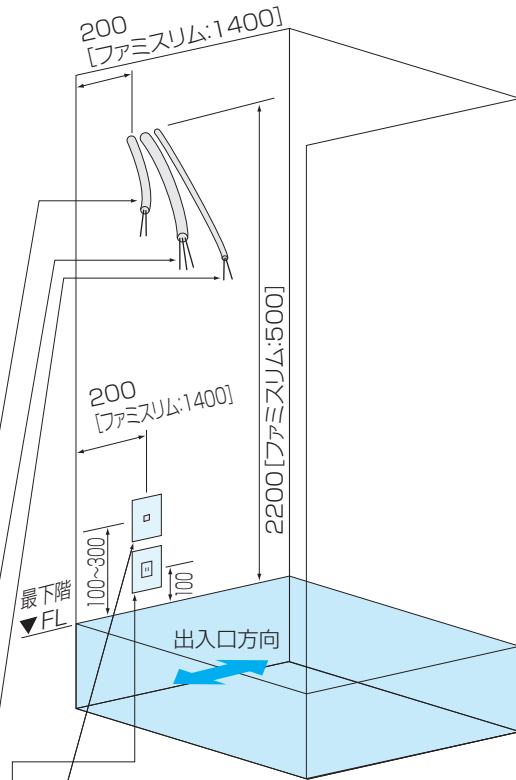
機種	定員	出入口方向	電源設備容量
スイ〜とホーム DXアバンティ/DX禪/DXファインウッド/ファミリー	3名	一方向 二方向	5.1kVA 5.8kVA
スイ〜とホーム ファミスリム	3名	一方向	5.1kVA
スイ〜とホーム コンパクト	2名	一方向 二方向	4.5kVA 5.1kVA
スイ〜とホーム ジュニア	2名	一方向	4.5kVA
スイ〜とモア スタンダード	3名	一方向 二方向	5.1kVA 5.8kVA
スイ〜とホーム ファミロング スイ〜とモア ロング	3名	一方向 二方向	5.3kVA 6.0kVA

※記載の値は据付状況、現地の実際の電圧、気温などにより変動しますので、あくまで目安となります。

注意 主幹ブレーカーの容量は、十分に余裕をもって選定してください。容量に余裕がないと、主幹ブレーカートリップが発生し、エレベーターが急停止する恐れがあります。またアース(D種接地)は必ず用意し、全てエレベーター専用としてください。

注意 お客様と電力会社とのご契約において、使用できる最大電流の上限(以降、契約電流)を設定する場合は、他の電気機器類のご使用を考慮した上で、十分余裕を持った値としてください。契約電流に十分余裕がない場合、リミッター(アンペアブレーカーやスマートメーター等)の上限を超過し、電力供給が断たれ、エレベーターが急停止する恐れがあります。また、契約電流は、電力会社によっては100V換算での数値となっている場合があります。エレベーターの駆動用電源は200Vであり、100V換算では2倍のアンペア数が必要となりますのでご注意ください。

注意 高圧または特別高圧で受電する場合は、経済産業省で定める「高圧または特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」に沿った対応が必要となります。ガイドライン対応時にエレベーターの回路種別番号、換算係数などが必要な場合には、当社までお問い合わせください。高調波抑制対策としてエレベーターでの対策が必要となる場合には、当社までお問い合わせください。



電話線及びインターホン(オプション)※5線

昇降路の最下階側面壁に中継ボックスを設置してください。中継ボックス部接続詳細は59ページをご参照ください。

電話線用配管

昇降路まではφ25mm以上の配管を施工し、電話線(局線)を配線してください。

インターホン※6(オプション)線

線引出し長さ:1m
電線:被覆ケーブル(2芯)単線φ0.65mm以上

特殊インターホン(24Vバッテリー付)(オプション)線※6※7

線引出し長さ:1m
電線:被覆ケーブル(6芯以上)単線φ0.9mm以上

※5 インターホンは「スイ〜とモア ロング、スタンダード」のみのオプションです。

※6 インターホン設置の場合も、施設の管理者が24時間対応できる場合を除き、電話機と併設となります。また、停電時でも使用できるように、非常用電源を用意してください。(電気・電話工事)特殊インターホン(24Vバッテリー付)は非常用電源の用意は必要ありません。

※7 特殊インターホン(24Vバッテリー付)は「スイ〜とモア ロング、スタンダード」のみのオプションです。

※8 インターホン線、特殊インターホン(24Vバッテリー付)線用配管は必要な場合、昇降路までφ20mm以上の配管を施工し、配線してください。

ビット内点検用コンセント※9

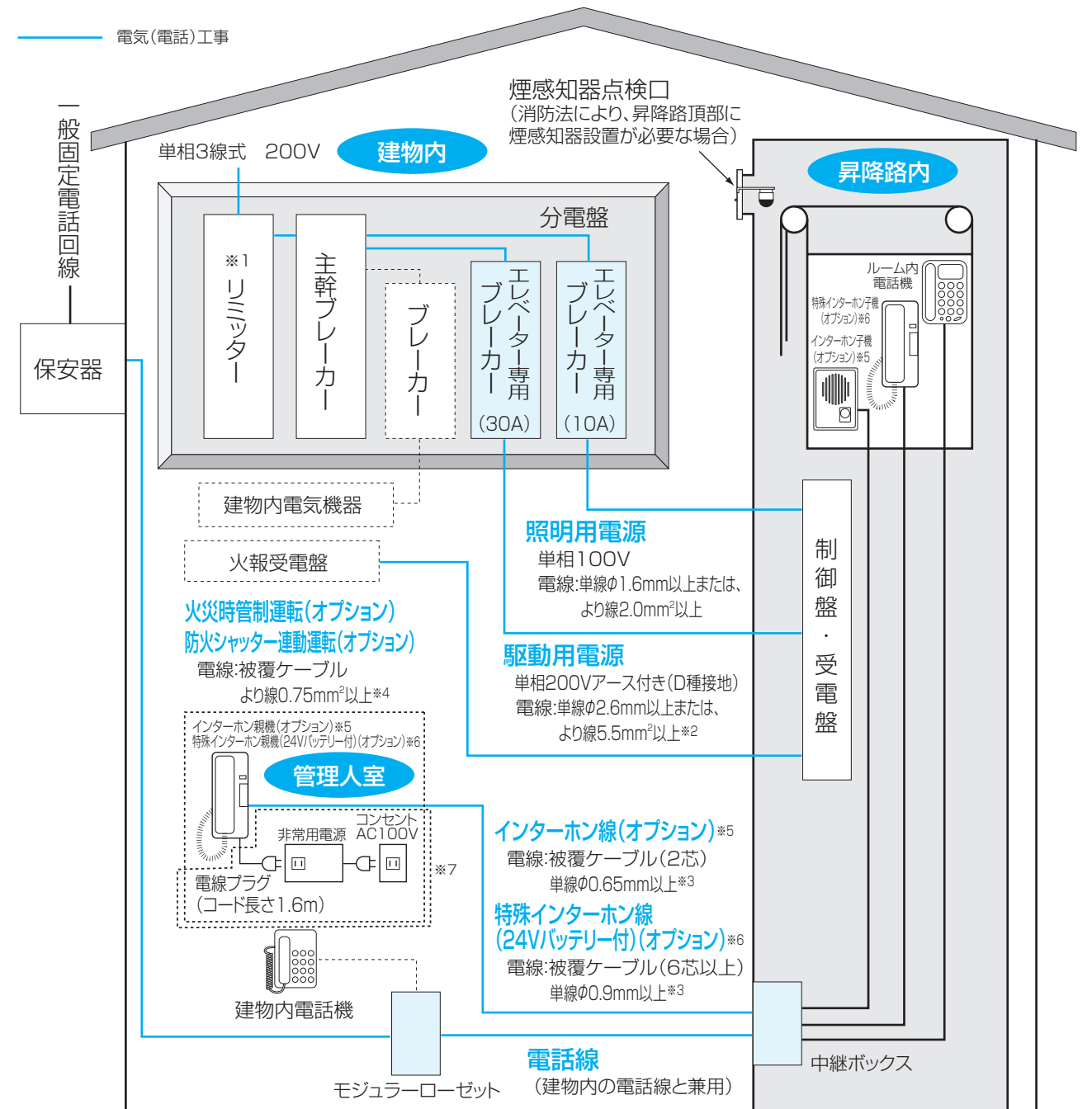
単相100V

器具:コンセント100V用

※9 ビット内にコンセントの設置が必要となる場合があります。詳しくは所管の行政庁へお問い合わせください。

電気・電話工事配線図

警告 エレベーター用の電源は必ず下図に従ってください。守られない場合、エレベーターが損傷、誤作動する恐れがあります。



※1 電力会社規定により分電盤外となることがあります。また、アンペアブレーカーやスマートメーター等が設置されている場合があります。

※2 分電盤までの電線総長さが20mを超えないようにしてください。

20mを超える場合は、(社)日本電気協会の内線規定に従い電線サイズを変更してください。

※3 管理入室までの電線総長さがインターホンは120m、特殊インターホン(24Vバッテリー付)は90mを超えないようにしてください。

※4 配線の芯数については、55ページをご参照ください。

※5 インターホンは「スイ〜とモア ロング、スタンダード」のみのオプションです。

※6 特殊インターホン(24Vバッテリー付)は「スイ〜とモア ロング、スタンダード」のみのオプションです。

※7 特殊インターホン(24Vバッテリー付)は非常用電源、コンセント、電源プラグはありません。

※8 インターホン線、特殊インターホン(24Vバッテリー付)線用配管は必要な場合、昇降路までφ20mm以上の配管を施工し、配線してください。

電源・電話線引き込み位置

- 最下階昇降路内の壁に、電源と電話線を支給してください。

照明用電源

単相100V

線引出し長さ:2m[Faamilium:6m]

電線:単線φ1.6mm以上または、より線2.0mm²以上

駆動用電源

単相200Vアース付き(D種接地)

線引出し長さ:2m(アース線含め3芯)[Faamilium:6m]

電線:単線φ2.6mm以上または、より線5.5mm²以上

火災時管制運転(オプション)線

防火シャッター運動運転(オプション)線

オプションで採用の場合は、自動火災報知設備※1の受信機または火災報知器からの移報接点(無電圧A接点※2)を昇降路内に供給してください。

線引出し長さ:2m[Faamilium:6m]

電線:被覆ケーブルより線0.75mm²以上

エレベーター側からの印加電圧:DC24V(50mA程度)

①火災時管制運転の場合は、各接点を並列に接続した線(2芯)が必要です。(60ページをご参照ください)

②防火シャッター運動運転の場合は、第一避難階(1箇所)用の線(2芯)とそれ以外の各階の接点を並列に接続した線(2芯)の計4芯が必要です。(60ページをご参照ください)

※1 自動火災報知設備とは、火災報知器、受信機、中継機から構成されるシステムタイプの警報装置です。

※2 無電圧A接点は常時開放している接点で、短絡する(信号を受ける)と通報動作に入る接点です。

※3 引込まれた線の先の階が分かるようにしてください。

※4 自動火災報知設備または火災報知器の設置場所については、消防法および条例に従い適切な場所に設置してください。詳しくは、所管の消防署、行政庁にお問い合わせください。(60ページをご参照ください)

電源の確保と配線

モア
ウェルスペース

モア
プラス

エレベーター専用ブレーカーの選定

●主幹ブレーカーはインバーター適合品の漏電ブレーカーとしてください。
(三菱電機NVシリーズ、日立Eシリーズ)

※2019年6月現在

●エレベーター専用のブレーカーを用意してください。定格は下表としてください。

(三菱電機NFシリーズ、日立Fシリーズ)

※2019年6月現在

ブレーカー容量

駆動用	照明用
30A(200V)	10A(100V)

電源設備容量

機種	定員	出入口方向	電源設備容量
スイ〜とモア ウェルスペース	3名	一方向	5.8kVA
スイ〜とモア プラス	3名	一方向	5.3kVA
		二方向	5.9kVA

※記載の値は据付状況、現地の実際の電圧、気温などにより変動しますので、あくまで目安となります。



注意

主幹ブレーカーの容量は、充分に余裕をもって選定してください。容量に余裕がないと、主幹ブレーカトリップが発生し、エレベーターが急停止する恐れがあります。またアース(D種接地)は必ず用意し、全てエレベーター専用としてください。



注意

お客様と電力会社との契約において、使用できる最大電流の上限(以降、契約電流)を設定する場合は、他の電気機器類のご使用を考慮した上で、十分余裕を持った値としてください。契約電流に十分余裕がない場合、リミッター(アンペアブレーカーやスマートメーター等)の上限を超過し、電力供給が断たれ、エレベーターが急停止する恐れがあります。また、契約電流は、電力会社によっては100V換算での数値となっている場合があります。エレベーターの駆動用電源は200Vであり、100V換算では2倍のアンペア数が必要となりますのでご注意ください。



注意

高圧または特別高圧で受電する場合は、経済産業省で定める「高圧または特別高圧で受電する需要家の高調波抑制対策ガイドライン」に沿った対応が必要となります。ガイドライン対応時にエレベーターの回路種別番号、換算係数などが必要な場合には、当社までお問い合わせください。高調波抑制対策としてエレベーターでの対策が必要となる場合には、当社までお問い合わせください。

電源・電話線引き込み位置

●最下階昇降路内の壁に、電源と電話線を支給してください。

照明用電源

単相100V
線引出し長さ:2m
電線:単線φ1.6mm以上または、より線2.0mm²以上

駆動用電源

単相200Vアース付き(D種接地)
線引出し長さ:2m(アース線含め3芯)
電線:単線φ2.6mm以上または、より線5.5mm²以上

火災時管制運転(オプション)線 防火シャッター連動運転(オプション)線

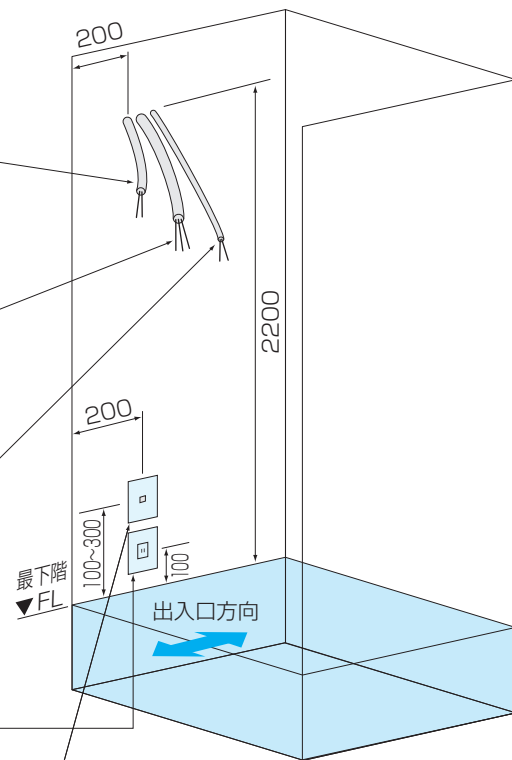
オプションで採用の場合は、自動火災報知設備^{※1}の受信機または火災報知器からの移報接点(無電圧A接点^{※2})を昇降路内に供給してください。

線引出し長さ:2m
電線:被覆ケーブルより線0.75mm²以上
エレベーター側からの印加電圧:DC24V(50mA程度)
①火災時管制運転の場合は、各接点を並列に接続した線(2芯)が必要です。(60ページをご参照ください)
②防火シャッター連動運転の場合は、第一避難階(1箇所)用の線(2芯)とそれ以外の各階の接点を並列に接続した線(2芯)の計4芯が必要です。(60ページをご参照ください)

※1 自動火災報知設備とは、火災報知器、受信機、中継機から構成されるシステムタイプの警報装置です。
※2 無電圧A接点とは常時開放している接点で、短絡する(信号を受ける)と通報動作に入る接点です。
※3 引込まれた線の先の階が分かるようにしてください。
※4 自動火災報知設備または火災報知器の設置場所については、消防法および条例に従い適切な場所に設置してください。詳しくは、所管の消防署、行政庁にお問い合わせください。(60ページをご参照ください)

ビット内点検用コンセント^{※6}

単相100V
器具:コンセント100V用
※6 ビット内にコンセントの設置が必要となる場合があります。詳しくは所管の行政庁へお問い合わせください。



電話線及びインターホン線^{※5}

昇降路の最下階側面壁に中継ボックスを設置してください。中継ボックス部接続詳細は59ページをご参照ください。

電話線用配管

昇降路まではφ25mm以上の配管を施工し、電話線(局線)を配線してください。

インターホン線^{※5}

線引出し長さ:1m
電線:被覆ケーブル(4芯以上)(ウェルスペースの場合)、
被覆ケーブル(6芯以上)(プラスの場合)
単線φ0.9mm以上

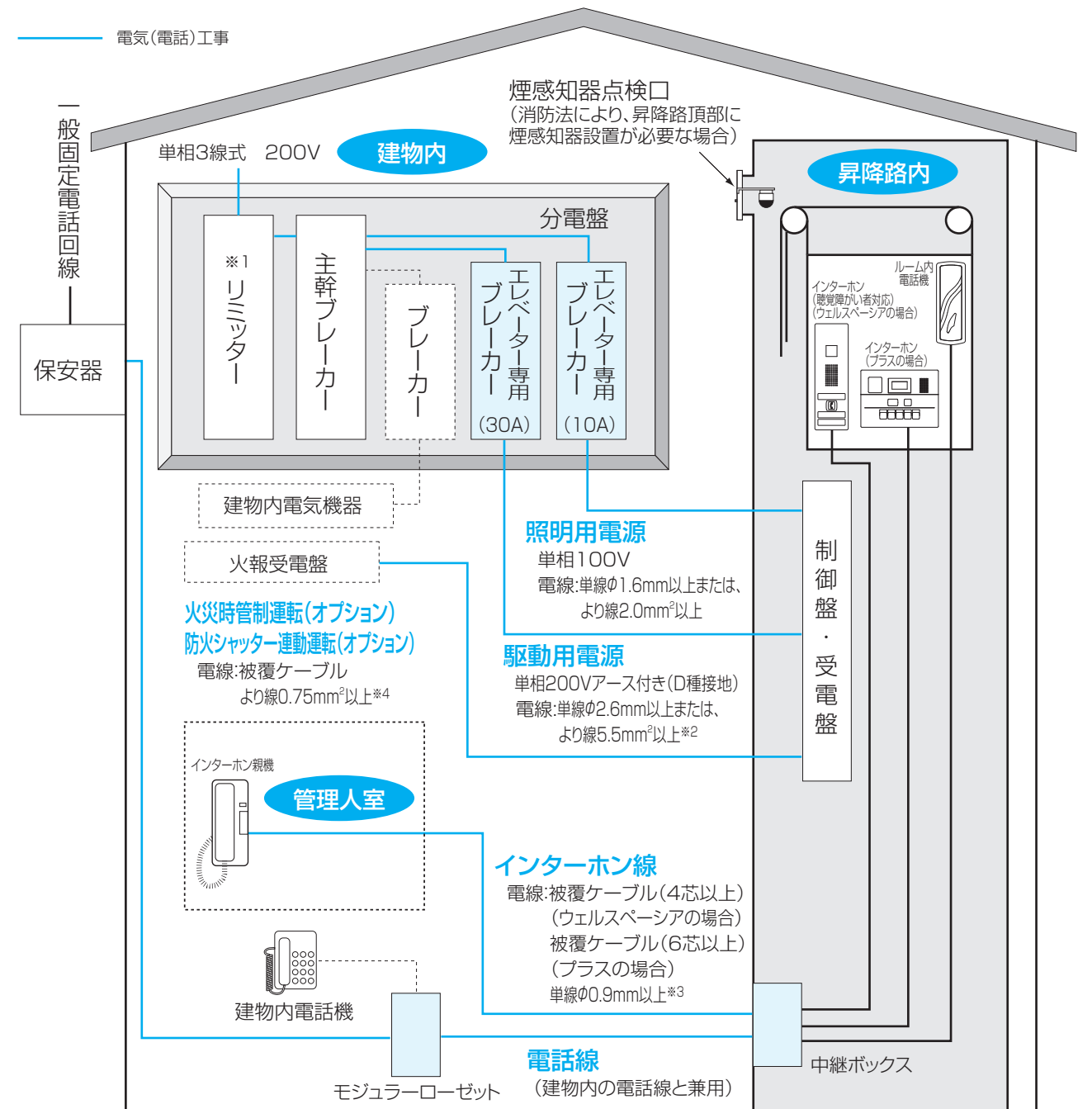
※5 施設の管理者が24時間対応できる場合を除き、電話機と併設となります。

電気・電話工事配線図



警告

エレベーター用の電源は必ず下図に従ってください。守られない場合、エレベーターが損傷、誤作動する恐れがあります。



※1 電力会社規定により分電盤外となる場合があります。また、アンペアブレーカーやスマートメーター等が設置されている場合があります。

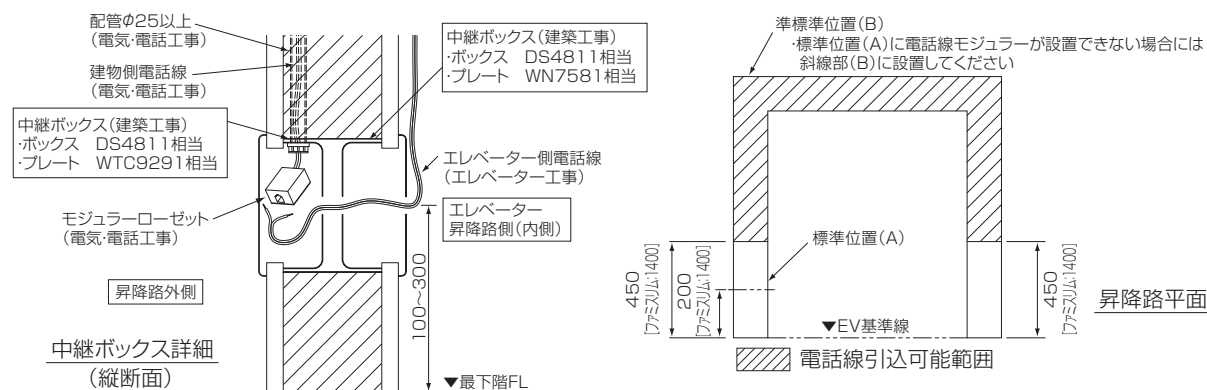
※2 分電盤までの電線総長さが20mを超えないようにしてください。20mを超える場合は、(社)日本電気協会の内線規定に従い電線サイズを変更してください。

※3 管理人室までの電線総長さが90mを超えないようにしてください。

※4 配線の芯数については、57ページをご参照ください。

中継ボックス部の設置と配線について

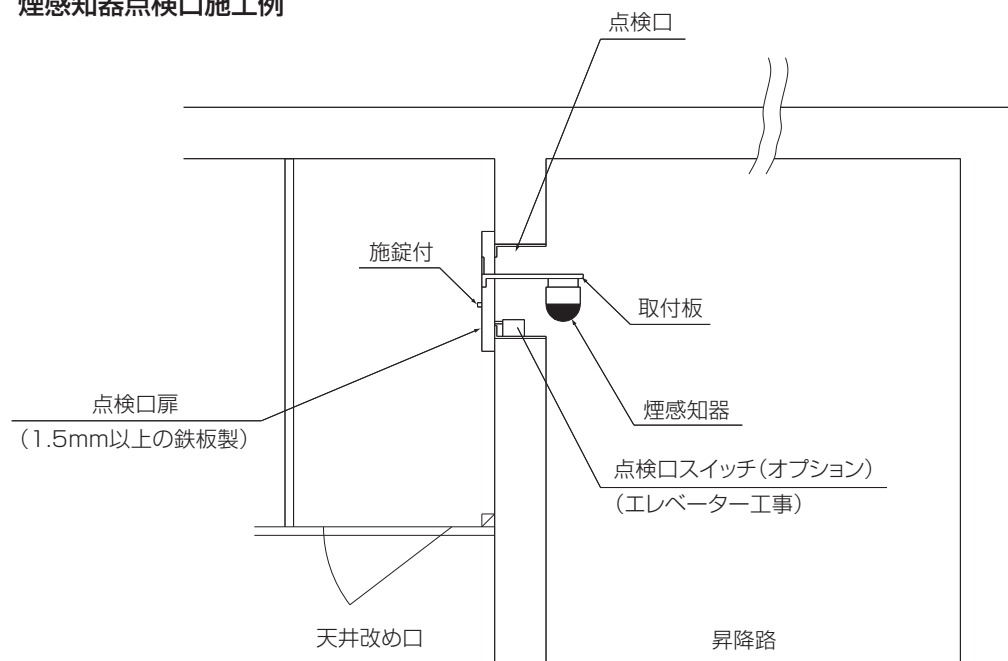
昇降路の最下階側壁に中継ボックスを設置してください(電気・電話工事)。エレベーター工事にて昇降路外側の中継ボックスまで電話線を配線します。電話工事では引込んだモジュラーローゼットに接続してください。エレベーター工事より先に電話工事を施工する時には、この部分の接続をエレベーター工事にて行います。インターホン(オプション)をご採用の場合も同様に中継ボックスまで配線してください。



煙感知器点検口の設置について

消防法により、火災報知設備の中の一つである煙感知器を、昇降路頂部に設置する場合、エレベーターの運行に支障を与えることがなく、保守点検が容易に行うことができる点検口を設けてください。また、点検口には安全スイッチ及び、鍵(ネジも可、但し蝶ネジは不可)を取り付けるなどの措置を行い、点検口扉が開いた時は、エレベーターの動力を切り、動かないようにしなければなりません(平成20年国土交通省告示1454号)。詳しくは当社までお問合わせください。

煙感知器点検口施工例



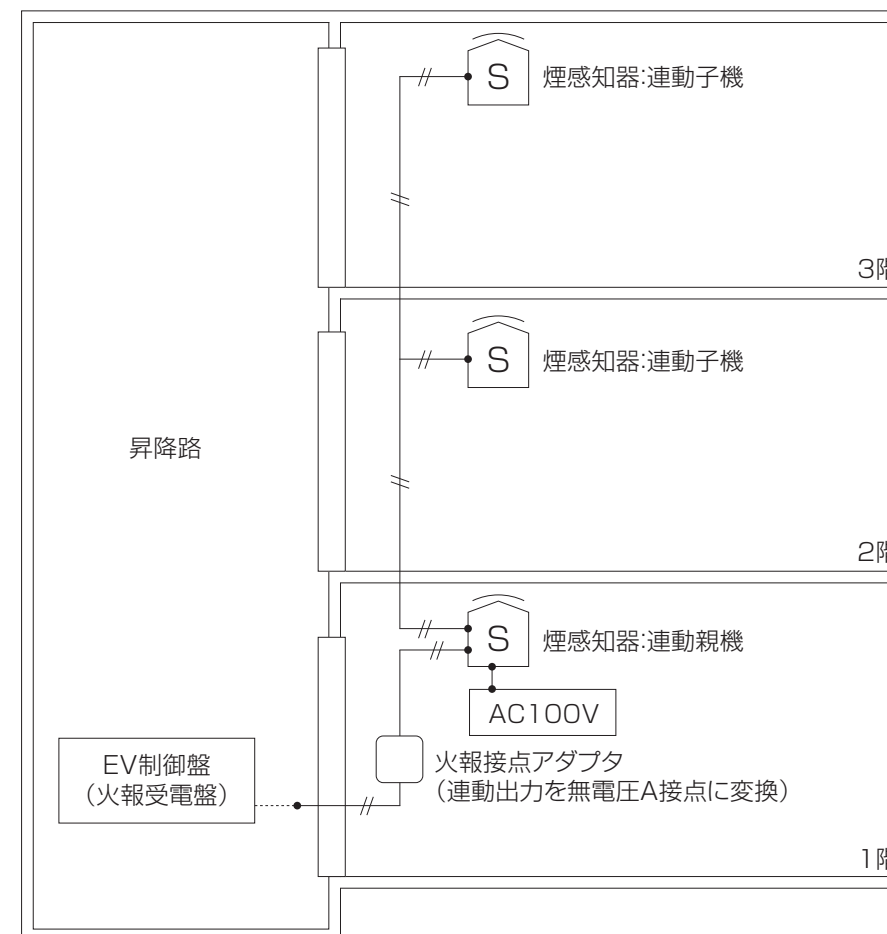
火災報知器のご選定について

感知器と警報部が一体となった単独タイプの火災報知器をご選定される場合には、エレベーターの火災時管制運転用の移報接点(無電圧A接点)が供給できる移報接点付タイプを必ず選定してください。

火災報知器の移報接点の供給について

火災時管制運転(オプション)、防火シャッター連動運転(オプション)をご採用の場合は、自動火災報知設備の受信機または火災報知器(無電圧A接点)を昇降路内に供給してください。

※詳細につきましては、56、58ページをご参照ください。



上図はAC100V式連動型の火災報知器接点の供給方法の一例を示します。機器の取付や配線方法などは、ご採用の火災報知器メーカーにお問い合わせください。

※昇降路頂部への火災報知器の設置は消防法や条例の基準に沿って必要な場合に設置してください。(59ページをご参照ください)

〈配線例〉

